



Academy  
Museum  
of Motion  
Pictures

## アカデミー映画博物館、9月30日に一般公開開始

2021年9月24日



Iwan Baan/© Iwan Baan Studios

映画製作のアート、科学、アーティスト、そして社会的影響について紹介し、比類のない体験を世界の人々に提供する[アカデミー映画博物館](#)が、2021年9月30日より一般公開されます。公開に先駆け、市政、文化、エンターテインメント分野のリーダー達、同博物館および映画芸術科学アカデミーの職員、そして博物館の設計を手掛けたレンゾ・ピアノ氏が出席して式典が開催されることになりました。アカデミー映画博物館は、世界の映画製作の中心であるロサンゼルスにあります。映画と映画文化に特化した博物館としては北米最大の規模を誇り、またロサンゼルスで唯一の映画博物館です。

### <アカデミー映画博物館関係者のコメント>

#### アカデミー映画博物館館長ビル・クレマー :

「絶えず進化するダイナミックな時代に私たちは生きています。楽しみや感動を通して物語を共有し、相互に学び合い、心を通じ合わせるものがこれまで以上に求められるようになってきています。これこそが映画の果たす役割です。映画という愛すべき芸術形態に特化した、ダイナミックで多様性に富んだ、居心地のいい施設をオープンできますことを心より嬉しく思います。ロサンゼルスのため、そして世界のために、この新しい施設の建設に向けて献身的に取り組んでくれたアカデミー映画博物館のチームの全員、そしてすべてのパートナーの皆様に深く感謝しています」

#### アカデミー映画博物館の最高芸術・プログラム責任者ジャクリーン・スチュアート :

「映画製作の歴史や、映画が私たちの暮らしに与える影響について多角的に取り上げる、アクセシブルな議論に、多くの人々が参加してくれることを願ってやみません。アカデミー映画博物館とギャラリー、シアター、教育用スペースをご利用いただけることを楽しみにしています。皆さんが、自分の知っている映画や好きな映画について知識を深め、新しい発見をし、自身が感じたことをシェアしようという気持ちになってくれることを願います」

### アカデミー映画博物館理事長・Netflix 共同最高経営責任者テッド・サランドス：

「アカデミー映画博物館は、映画という協調的なアートを生み出す広範なコミュニティを反映しています。そして、そのコミュニティの手により、この博物館は建設されることとなりました。映画芸術科学アカデミーの理事会、キャンペーン議長のボブ・アイガー氏、共同議長のアネット・ベニングとトム・ハンクスの両氏、そして合わせて1万3,000を超える個人、企業、財団、政府機関の皆様のおおきな支援のおかげで、アカデミー映画博物館の開館が実現しました。理事会を代表してお礼を申し上げます。アカデミー映画博物館の幹部とスタッフ、レンゾ・ピアノ氏とゲンスラーの協力のもと行われた建設作業、そして展示デザイナーの WHY architecture に深く感謝します。皆様のおかげで、長年の夢であった映画博物館が現実のものとなりました」

### 映画芸術科学アカデミー最高経営責任者ドーン・ハドソン：

「1927年に映画芸術科学アカデミーが設立されるとすぐに、幹部陣は映画博物館の計画に着手しました。1929年には提案書が出されました。その後の世界で何が起ころうと、どのような課題が立ちのぼるかと、その夢が叶えることはありませんでした。アカデミー映画博物館の開館を迎えるにあたり、長年抱き続けてきたビジョンがとうとう現実のものになるのだと、誇らしい気持ちでいっぱいです」

7階建て、総面積約30万平方フィート（約2万8,000平方メートル）のアカデミー映画博物館は、ロサンゼルス市のミラクル・マイル地区の中心に位置します。映画芸術科学アカデミー保有の貴重な映画資産が集められており、オープニングを飾る展示は以下のような内容となっています。

- [Stories of Cinema（映画の物語）](#)：展示面積約3万平方フィート（約2,800平方メートル）。中核的な展示であり、現在と過去における映画製作の専門分野と影響を賞賛すると同時に、批判的また個人的な見地に立ってこれらを見ていきます。
- [宮崎駿展](#)：アニメーション映画監督として高い評価を受けている宮崎駿に焦点を当てた、北米初となる企画展です。
- [The Path to Cinema（シネマへの道）](#)：リチャード・バルツァーコレクションハイライト：映画誕生前の光学玩具や装置の世界有数のコレクションを展示します。
- [Backdrop: An Invisible Art（バックドロップ：見えざる芸術）](#)：『北北西に進路を取れ』（米国、1959年）に登場するラッシュモア山の絵を展示する、2階分の高さのインスタレーションです。
- [The Oscars® Experience（オスカー体験）](#)：ハリウッドのドルビー・シアターのステージに立ってアカデミー賞を授与されているかのような感覚が味わえる没入型のプログラムです。

[上映スケジュール](#)（Oscar® Sundays とファミリーマチネを含む）は、館内に新設されたデヴィッド・ゲフィン・シアター（1,000席）とテッド・マン・シアター（288席）で発表されます。第1弾として、アカデミー賞にノミネートされたことのある作曲家デヴィッド・ニューマンの指揮によるアメリカン・ユース交響楽団の生演奏をバックに、[『オズの魔法使』](#)（米国、1939年）が、9月30日にデヴィッド・ゲフィン・シアターで上映されることになっています。オープンからの3カ月間、以下の映画上映、討論会、プログラムを実施いたします。

- [Stories of Cinema（映画の物語）](#)：中核展示の「Stories of Cinema（映画の物語）」の中で、『Real Women Have Curves』（米国、2002年）や『ドラゴンへの道』（香港、1972年）などの映画の上映を行います。
- [『マルコム X』（70mm版）](#)：アカデミー映画博物館会員向けの上映会として、ゲストにスパイク・リーとデンゼル・ワシントンを迎え、『マルコム X』70mm版の特別上映を行います。

- [Oscar® Frights](#) : 『ゲット・アウト』 (米国、2017年)、 『パンズ・ラビリンス』 (メキシコ、2006年)、 『サイコ』 (米国、1960年) など、アカデミー賞受賞作およびノミネート作となったホラー映画を上映します。
- [宮崎駿作品](#) : オープニング企画展とあわせて、宮崎駿監督の全11作品を上映します。
- [Imperfect Journey:Haile Gerima and His Comrades](#) : マリク・サイード氏、ブラッドフォード・ヤング氏、アーサー・ジャファ氏、エイヴァ・デュヴァーネイなどのゲストを迎え、ハイレ・ゲリマを称える上映会を行います。
- [Sound Off:A Celebration of Women Composers \(女性作曲家を称えて\)](#) : 『ジョーカー』 (米国、2019年/音楽ヒドゥル・グドナドッティル) や 『トロン』 (米国、1982年/音楽ウエンディ・カルロス) など、女性作曲家が音楽を担当した映画を上映します。
- [ジェーン・カンピオンとサタジット・レイ](#) の回顧展 : アカデミー・フィルム・アーカイブが所蔵するサタジット・レイの豊富な作品群を紹介합니다。
- [Beyond the Icon:アンナ・メイ・ウォン](#) : 映画女優アンナ・メイ・ウォンの出演作とそのレガシーを紹介。 『ピカデリー』 (米国、1929年) や 『上海特急』 (米国、1932年) の上映などを予定しています。
- [レガシー対談](#) : 世代を超えた討論会シリーズ。初回は、映画俳優のローラ・ダーン氏が父ブルース・ダーン氏と母のアイアン・ラッド氏と語り合います。
- [In Conversation](#) : トピックを決めての討論会シリーズ。初回は、映画プロデューサーのエフィー・T・ブラウンとヘザー・レイの両氏が映画を文脈化する方法について語り合います。

展示ギャラリー、シアター、シャーリー・テンプルスタジオなど、館内のさまざまな場所で[教育プログラム](#)や[ファミリー向けプログラム](#)を継続して実施します。十代向けのプログラム、ファミリー・スタジオ・アクティビティ、学校ツアーなどが予定されています。目や耳に障害のある方々に向けた段階別の適応型ツアーを毎月実施するほか、神経多様性に配慮した適応型のファミリー向け上映会を開催します。

Fanny's は、レストラン経営者の Bill Chait 氏と Carl Schuster 氏の両氏の発案のもと、ロサンゼルスに拠点を置く Commune Design が設計を手掛けたレストラン・カフェです。まずは朝食とランチの提供から始め、今秋中にディナーのサービスも開始する予定です。店名は、映画、ボードビル、芝居、ラジオで活躍した伝説的スターのファニー・ブライスにちなんでつけられました。バーバラ・ストライサンドは、映画『ファニー・ガール』 (1968年) でブライスの役を演じ、アカデミー賞を受賞しました。広さ約1万平方フィート (約930平方メートル) の2階建てのこのレストランは、今は亡き建築家 Osvaldo Maiozzi 氏のコンセプトに基づいており、シェフの設計によるオープンキッチン、洗練された雰囲気のあるバー、古き良き時代を彷彿させる給仕長による接客などが特徴となっています。Raphael Francois 氏が総料理長を、Julian Cox 氏がバーテンダーを務め、ケータリングサービスはウルブギャング・バック・ケータリングが取り仕切ります。

[アカデミー・ミュージアムストア](#)は、シドニー・ポワチエ・グランドロビーに隣接する広さ約2,600平方フィート (約240平方メートル) のスペースで買い物を楽しめるショップであり、限定グッズや、アカデミー賞グッズなどの映画に関連する商品を販売します。アカデミー・ミュージアムストアは、映画製作のアートとアーティストに関する多様なストーリーを展示するというアカデミー映画博物館のミッションの延長線上にあります。ロサンゼルスおよびカリフォルニアを拠点に活動する、多様性に富み、人々に感動を与えてくれる多くのパートナーの皆様と商品・コレクションの制作で協力できることを楽しみにしています。

## 市の式典とオープニングイベント

アカデミー映画博物館の開館を祝う市の式典が、ウォルト・ディズニー・カンパニー・ピアッツァで9月30日午前9時より、招待客と報道関係者が参加し、開催されます。アメリカ先住民族であるTongvaコミュニティの代表が土地への謝辞を述べた後、映画芸術科学アカデミーの最高経営責任者のドーン・ハドソン氏と会長のデビッド・ルービン氏、アカデミー映画博物館のインクルージョン諮問委員会議長でGamechanger Filmsの最高経営責任者である映画プロデューサーのエフィー・T・ブラウン氏、California Film Commission 委員長のコリーン・ベル氏、アカデミー映画博物館の設計を手がけた建築家のレンゾ・ピアノ氏、ロサンゼルス郡政執行官のシーラ・キュール氏、ロサンゼルスのエリック・ガルセッティ市長、ロサンゼルス第4区のニティア・ラマン議員により式辞が述べられます。進行役は、アカデミー映画博物館館長のビル・クレマーが務めます。来賓には、映画芸術科学アカデミーとアカデミー映画博物館の幹部とスタッフ、同博物館の活動に対する大口献金者、オープニング企画展の担当デザイナーと協力者、近隣の文化施設の上層部、およびコミュニティ組織の代表が含まれます。記念のテープカットの後、午前10時に一般の方に向けてオープンします。また、一般公開に先駆けて特別イベント式典が行われます。第1弾として、9月25日(土)にオープニングセレモニーが開催されます。ジェーソン・ブラム氏、エイヴァ・デュヴァーネイ氏、ライアン・マーフィー氏の3名が司会を務め、脚本家・プロデューサー・監督のハイレ・ゲリマと女優のソフィア・ローレンを称えると同時に、アカデミー映画博物館のキャンペーンリーダーであるボブ・アイガー氏、アネット・ベニング氏、トム・ハンクス氏に感謝の意を表します。セレモニーはRolexが主催し、J.P. Morganの後援のもと開催されます。

続いて9月26～29日の4日間にわたり、博物館会員向けの内覧会を実施します。9月28日(火)には、博物館理事会、アカデミー理事会、大口献金者、展示の協力者や融資者など、アカデミー映画博物館の実現に向けてご貢献いただいた方々を招いてのオープニングナイトが開催されます。9月29日(水)のプレミアパーティーでは、映画製作者、アーティスト、ミュージシャン、デザイナーといったクリエイターの皆さんをアカデミー映画博物館にお迎えします。

10月17日(日)の午前10時から午後6時まで無料のコミュニティ祝賀パーティーが開催され、オープニングイベントが締めくくられます。

## オープニング企画展

オープンを記念して、約5万平方フィート(約4,600平方メートル)のギャラリースペースでは、ダイナミックで多様性に富んだ映画の歴史を世界の人々と共有するという、アカデミー映画博物館のミッションを称える一連の展示が行われます。3つのフロアにわたって展開される中核展示の「**Stories of Cinema (映画の物語)**」や、宮崎駿監督の北米初となる企画展のほか、映画に対する理解と、賛美、保護の促進に向けた当館のコミットメントを示す魅力的な企画展が多数予定されています。

アカデミー映画博物館の中核展示である「**Stories of Cinema (映画の物語)**」は、華々しく、かつ複雑に入り組んだ国際的な映画の歴史に出会える場です。約3万平方フィート(約2,800平方メートル)のスペースにおいて、映画製作の歴史、アート、科学のあらゆる側面を紹介するものであり、3つのフロアにわたって展示が展開されます。すべてのスペースで、動画、音響、小道具、衣装、台本、ポスター、映画美術のスケッチや衣装のデザイン画、マットペインティング、写真、背景画、アニメーションのセル画、パペット、マケット(模型)が一面に展示されます。

アカデミー映画博物館では、映画の発展を語るのには1つの物語では足りないと考え、異なる意見に耳を傾け、さまざまな視点から映画製作をとらえた複数の物語を紹介しています。映画そのもの

と同じように、「Stories of Cinema（映画の物語）」のギャラリーもまた、時と共に進化・変化し、さまざまな映画、アーティスト、時代、ジャンルなどを取り上げていきます。「Stories of Cinema（映画の物語）」は、ストーリー、アート、アーティストを称え、支持するいっぽうで、複雑に入り組んだ苦難の物語を語る場でもあります。

「Stories of Cinema（映画の物語）」の展示は、シドニー・ポワチエ・グランドロビーのガラスの壁に囲まれた「スピルバーグ・ファミリー・ギャラリー」でのインスタレーションから始まります。このインスタレーションは、展示への導入部であり、複数のスクリーンで流される13分の紹介ビデオと、リュミエール兄弟の時代から現代にいたるまでの700本の映画作品から切り取った場面とスチールによって、映画の歴史にすぐさま入り込むことができます。

続いて、2階のWandaギャラリーでは、その先々にあるギャラリーで上映される映画の場面が室内全体に投影されます。**Significant Movies and Moviemaker** ギャラリーに進むと、6つの小さな展示により、『市民ケーン』（1941年）と『Real Women Have Curves』（2002年）などの映画、および映画アーティストのセルマ・スーンメイカー（Thelma Schoonmaker）、ブルース・リー、「チーボ」の愛称で知られるエマニュエル・ルベツキ（Emmanuel Lubezki）、オスカー・ミショー（Oscar Micheaux）の基本情報とレガシーが紹介されています。



Joshua White, JWPictures

**Academy Awards History（アカデミー賞の歴史）** ギャラリーは、サバン・ビルを象徴する金の円筒部分の2階に設置された円形のギャラリーから始まります。ここでは、撮影賞に輝いた『サンライズ』（1927年）から、作品賞を受賞したバリー・ジェンキンスの『ムーンライト』（2016年）まで、歴史に残る20の受賞のオスカー像を展示しています。広いギャラリーでは、1929年から現在に至るまでのアカデミー賞の歴史を歩きながら年代順に見ることができます。アカデミー賞と映画芸術科学アカデミーの起源の概説や、記憶に残る受賞と不名誉なエピソード、アカデミー賞のファッションが紹介されています。また、壁のカーブに沿って設置されたスクリーンには歴史的な受賞スピーチが映し出されます。

オープニング企画展として、**Director's Inspiration** ギャラリーではアカデミー賞受賞監督スパイク・リーを取り上げています。一緒に仕事をしたことのあるプリンスが持っていたギターなど、個人的なコレクションも展示します。監督自身から話を聞き、作品群と代表作の背後にあったインスピレーション、さらには繰り返されるテーマと共同制作者について考察していきます。

さらに先へ進むと、Story ギャラリーに出ます。ここでは、映画のストーリーの構造と概念化について取り上げており、『深夜の告白』（1944年）、『アリーケの詩』（2011年）、『サイコ』（1960年）、『恋人たちの予感』（1989年）など、独創的な映画作品の脚本と絵コンテを展示しています。The Art of Moviemaking ギャラリーでは、オープニング作品として『オズの魔法使』（1939年）を取り上げます。舞台裏に踏み込み、シナリオ制作、キャスティング、メーキャップデザイン、衣装デザイン、映画美術、音響デザイン、特殊効果、演技、監督、演出など、協力し合うことで1つの映画を生み出すさまざまな専門領域について深く掘り下げて見ていきます。

The Art of Moviemaking に隣接する複数のギャラリーでは、映画美術に特化した展示を行います。Performance（パフォーマンス）ギャラリーでは、スクリーンテスト、オーディションテープ、キャスティングカードを通して、キャスティングとアクティングについて詳しく紹介します。Image（イメージ）ギャラリーでは、撮影スタッフ、ロケーションマネージャー、美術監督のインタビューをまとめた映像を上映します。Sound（サウンド）ギャラリーでは、アカデミー賞受賞音響デザイナー、ベン・バートの手掛けた『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』（1981年）の1シーンを例に取り、音響デザインについて細かく分析します。

Identity（アイデンティティ）ギャラリーでは、『紳士は金髪がお好き』（1953年）や『ウィズ』（1978年）のものなど、40以上の衣装と衣装デザインのスケッチを見ることができ、20世紀の映画の歴史を広く網羅した展示内容となっています。加えて、1人の衣装デザイナーにフォーカスした展示も行います。オープニングを飾るのは、メアリー・ゾフレスがデザインした衣装です。

Identity（アイデンティティ）ギャラリーのメイクアップ・ヘアスタイリングのセクションでは、リック・ベイカーの『キングコング』（1976年）のスキンテスト、『モンスター』（2003年）、『マッドマックス 怒りのデス・ロード』（2015年）、『スキャンダル』（2019年）でのシャーリーズ・セロンの変身の様子、グレース・ケリー、クラーク・ゲーブル、メル・ブルックス、ドン・チードルの石膏ライフマスク、カーク・ダグラス、マリリン・モンロー、早川雪洲、ホイットニー・ヒューストンのメイクアップチャートとメイクアップカード、『フリーダ』（2002年）と『ジョイ・ラック・クラブ』（1993年）の撮影用台本、そして『ルディ・レイ・ムーア』（2019年）のケーススタディを見ることができます。さらには、映画における人種的なステレオタイプの固定化にヘア・メイクがどのように寄与してきたのか、例をあげて探っていきます。

2階の最後のギャラリーが Impact/Reflection（インパクト/リフレクション）です。オープニング企画では、Black Lives Matter（ブラック・ライブズ・マター）、#MeToo、労使関係、気候変動という、社会に大きな影響を与えた4つの事柄を取り上げ、ドキュメンタリーや物語の映画をきっかけに文化的な変化を起こすにはどうすればいいのかを探っていきます。

「Stories of Cinema（映画の物語）」はさらに続きます。3階のRolex ギャラリーでは、ペドロ・アルモドバルを皮切りに、世界の映画アーティストのインスタレーションが入れ替わり方式で登場します。ギャラリーには12のスクリーンが設置され、それぞれにアカデミー賞受賞監督の作品群に見られる重要なテーマやシーンが映し出されます。

「Inventing Worlds & Characters（インベンティングワールド&キャラクターズ）」は、Animation、Effects、Encountersの3つのギャラリーにまたがり展開されます。Animation ギャラリーでは、手書き、ストップモーション、デジタルのアニメーションを取り上げます。さらに、ロッテ・ライニガー、タイラス・ウォン、大友克洋、ピート・ドクターなど、世界中で愛されるアニメ映画を手掛

けたアーティストの業績を紹介します。Effects ギャラリーでは、ジョルジュ・メリエスなど、大物特殊効果クリエイターを取り上げ、『ターミネーター2』（1991年）や『アバター』（2009年）などで使われた特殊効果や視覚効果にスポットライトを当てます。Encounters ギャラリーでは、SF、ファンタジー、ホラーの世界を産み出す映画美術に注目し、実際のセットや衣装に加え、C-3PO、E.T.、オコエ、エドワード・シザーハンズなどの象徴的なキャラクターを取り上げます。

「Connected to Encounters is Behold」は、アカデミー賞受賞音響デザイナーのベン・パートによるオリジナルのインスタレーションです。円筒形の上映室の320度のスクリーンに、映画の中の宇宙と未来の進化の過程が年代順に映し出されます。

**Composer's Inspiration** 音響ギャラリーでは、1人の映画音楽作曲家に特化した展示を行います。オープニングを飾るのは、アカデミー賞受賞作曲家ヒルドゥル・グドナドッティルと、この空間のために特別に作曲された新曲とのコラボレーションとなります。

来場者は、映画の未来についての深い思索を胸に、「Stories of Cinema（映画の物語）」を後にすることになります。

アカデミー映画博物館のオープニング企画展である宮崎駿展は、高い評価を受けている宮崎駿監督とその作品を取り上げる、北米初の回顧展です。同博物館のMarilyn and Jeffrey Katzenberg ギャラリーでは、長編アニメーション作品『となりのトトロ』（1988年）やアカデミー賞受賞作の『千と千尋の神隠し』（2001年）などの宮崎駿監督作品から、海外初出品のものを含む、オリジナルイメージボード、キャラクターデザイン、絵コンテ、レイアウト、背景画、ポスター、セル画など約400点をダイナミックに展示するほか、映画の大型投影を行い、臨場感たっぷりの環境の中、宮崎駿監督の60年のキャリアを振り返ります。

テーマ別にセクションが分かれており、1つの旅として展示を楽しめるようになっています。まずは、『となりのトトロ』に登場する4歳のメイの後を追って、宮崎駿監督の魅力的な世界への通過点であるツリートンネルギャラリーに入ります。中に入ると、宮崎作品の主人公たち（その多くが女性）が紹介されており、コンセプトから制作にいたるまで、これらのキャラクターがどのようにして誕生したのかを知ることができます。アニメーターとして参加した初期の作品や、スタジオジブリの共同創設者である故高畑勲監督との長きにわたる共同作業についても解説しています。『風の谷のナウシカ』（1984年）の制作の過程に焦点を当てたセクションでは、宮崎駿監督独自の映画作りの手法を知ることができます。

さらに進んで、クリエイティングワールドギャラリーでは、宮崎駿監督の描く美しく平和な自然の風景と、労働と技術に支配された産業の世界との対比を捉えます。いずれも、宮崎作品にしばしば登場するものです。宮崎駿監督の想像力が垣間見られるイメージボードや背景画から、『千と千尋の神隠し』に登場する有名な湯屋のような、垂直に伸びる複雑な建造物の魅力や、『崖の上のポニョ』（2008年）に出てくる水中世界、『紅の豚』（1992年）や『風立ちぬ』（2013年）に見られるような空を飛ぶことに対する強い興味などに焦点が当てられます。スカイビューインスタレーションでは、今回の展示のハイライトともいえる瞬間が味わえます。宮崎駿監督の作品に頻りに登場する、「ゆったりとした時間を過ごしたい」「夢を見たい」という思いを表現したスカイビューインスタレーションでは、ゆっくりとした時間を過ごしていただけます。次に、トランスフォーメーションギャラリーに入ると、宮崎作品で繰り返し取り上げられる戦争や汚染問題など、より困難ないくつかのテーマが紹介され、これらを体感しながら、Mother Tree（母なる木）のインスタレーションに導かれて、さらに作品の世界観に浸れるマジカルフォレストに入っていきます。宮崎駿監督の作品の多くに登場する巨大で神秘的な木は、夢と現実のはざまに立ち、別の世界と私

たちをつなぎ、新たな世界への扉を開いてくれるものです。森の中では、現れては消えるコダマを見つけ、宮崎駿監督が書いた詩のいくつかを読むことができます。そして、最後に『千と千尋の神隠し』の不思議な通路で締めくくられます。千尋の足音と共にここを通り抜け、宮崎駿監督の世界を後にして、現実の世界に戻っていくことができます。

今回、「宮崎駿展」の開催と併せ、アカデミー映画博物館と DelMonico Books は豊富なイラストレーションの入った 288 ページに及ぶ図録を発行します。この図録は D.A.P. Artbook によって全世界で発売されます。図録には、鈴木敏夫氏による序文、ピクサーのピート・ドクター (Pete Docter) 監督やダニエル・コテンシュルテ (Daniel Kothenschulte) 氏、ジェシカ・ニーベル (Jessica Niebel) 氏等のエッセイ、フィルムグラフィイーが収録されています。また、会期中、さまざまな公開プログラムが開催されるほか、アカデミー・ミュージアムストアでのオリジナルグッズ販売、最新設備を備えた博物館内のシアターで、日英両言語での映画上映も行われます。

「宮崎駿展」と連動する形で、博物館では隣接するワーナーブラザーズギャラリー4階で、[「ピクサー・トイ・ストーリー・3D ズエトロープ \(The Pixar Toy Story 3D Zoetrope\)」](#)も展示しています。ここには、2000年代中盤にスタジオジブリによる同様の装置から着想を得てピクサーが制作した、映画『トイ・ストーリー』(1995年)の人気キャラクターが登場する巨大な立体ズエトロープが展示されています。まず、ターンテーブルの上に乗って、一連のポーズをとった『トイ・ストーリー』のマケット(模型)214体が現れます。テーブルを回転させ、ストロボを点滅させると、キャラクターに命が吹き込まれます。ウッディと馬のブルズアイが駆けて行き、バズがピクサーボールに乗って転がり、『トイ・ストーリー2』に登場するカウガールのジェシーは投げ縄の中で踊ります。軍人がパラシュートで空から降りてきて、エイリアンが手を振りながら遊んでいる様子を見ることができます。

[シネマへの道 \(The Path to Cinema\) : リチャード・パルツァー コレクションハイライト](#)が3階の LAIKA ギャラリーに展示されます。このコレクションは、映画誕生以前の光学玩具や装置の世界有数のコレクションとされ、影絵、のぞき絵、マジックランタン、ズエトロープ、プラクチノスコープから、世界初の映写機「シネマトグラフ・リュミエール」まで、映画の発明へと至る視覚的エンターテイメントの長い歴史をたどることができます素晴らしい発明の数々を実際に体験し、今回の展示のために特に制作された幻想的なマジックランタンショーを楽しむことができます。

2階分の34フィート(約3メートル)の高さのドラマチックな Hurd ギャラリーで初めてお披露目されるのが、[Backdrop: An Invisible Art \(バックドロップ: 見えざる芸術\)](#)です。ここでは、ハリウッドにおける背景の歴史を紹介し、代表的な背景画として、芸術性と想像性の両面で高く評価されている、ヒッチコック監督の『北北西に進路を取れ』(1959年)で象徴的なラッシュモア山の背景画にスポットを当てます。風景画家のジョージ・ギブソン、ベン・カレ、ウェイン・ヒル、クラーク・プロヴァン、ハリー・テプカー、アル・ロンドラビル、ダンカン・スペンサーらの手によって1958年に製作されたこの背景画は、何十年にも渡り J.C. Backings Corporation で保管された後、アカデミー映画博物館に寄贈されました。

最後に、East West ギャラリーで開催されるのが、ハリウッドのドルビー・シアターのステージでアカデミー賞を受賞する瞬間を体験できるイマーシブなプログラム「The Oscars® Experience (オスカー体験)」です。

## 建築デザイン

博物館の建物は、[プリツカー賞を受賞した建築家レンゾ・ピアノ](#)氏がレンゾ・ピアノ・ビルディング・ワークショップと共同で設計し、建設設計事務所のゲンスラーが建設を担当しました。ロサン

ゼルスを中心部、ウィルシャー・ブルバードとフェアファクス通りにある約 30 万平方フィート（約 2 万 8,000 平方メートル）のアカデミー映画博物館は、ストリームライン・モダン様式の代表的な建物として知られる 1939 年建築のメイ・カンパニービルを修復・拡張し、現在は寄贈者であるシェリル&ヘイムのサバン夫妻の名を冠してサバン・ビルと名前を変えた建物と、新たに建てられたガラスとコンクリートの球体のビルという、2 つの対照的な建物の組み合わせになっています。



Iwan Baan/© Iwan Baan Studios

フェアファックス通りに面した約 25 万平方フィート（約 2 万 3,000 平方メートル）のサバン・ビルには、シドニー・ポワチエ・グランドロビー、ギャラリースペース、288 席のレッド・マン・シアター、シャーリー・テンプル教育スタジオ、デビー・レイノルズ・コンサベーションスタジオ、レストラン&カフェの Fanny's、アカデミー・ミュージアムストアなどがあります。4 万 5,000 平方フィート（約 4,200 平方メートル）の球体の建物には、1,000 席のデヴィッド・ゲフィン・シアター、ドルビー・ファミリー・テラスがあります。

サバン・ビルからは、中 2 階のケイシー・ワッサーマン・ブリッジでデヴィッド・ゲフィン・シアターへ、5 階のバーブラ・ストライサンド・ブリッジからドルビー・ファミリー・テラスに渡ることができます。博物館の北側のエントランスの外側、球体の根元の部分には、ウォルト・ディズニー・カンパニー・ピアッツァがあります。広場には、アーティストのロバート・アーウィンがデザインした造園が施されており、矮小な南マグノリアの木やカロの低木、カリフォルニア・ファン・パーム、ヴィンカ・マイナー、メキシカン・ファン・パーム、そしてジャカラランダの木などが配置されています。

博物館の建物は、米国グリーンビルディング評議会による LEED ゴールド認証を取得しています。

### キュレーションチームとクレジット

「Stories of Cinema（映画の物語）」の企画・運営担当は、アカデミー映画博物館の館長兼プレジデントのビル・クレマー、キュレーション業務担当シニアディレクターのドリス・バーガー、エキシビション・キュレータージェニー・ヒー、アシスタントキュレーターの J. ラウル・グズマン、ダラ・ジャッフェ、アナ・サンティアゴ、ソフィア・セラーノ、サポートにはリサーチアシスタント

トのエスム・ダグラスおよびマヌーシュカ・ラバーバ、アカデミー映画博物館のインクルージョン諮問委員会、アカデミー支部のタスクフォースがあたり、PWCの提供による開催となります。大口の資金提供者である Gerald Schwartz および Heather Reisman のほか、Metro Goldwyn Mayer、Ruderman Family Foundation、FotoKem、Barbara Roisman Cooper and Martin M. Cooper、Jocelyn R. Katz、John Ptak and Margaret Black、Lauren Shuler Donner、Randy E. Haberkamp、Kevin McCormick and A. Scott Berg、and John and Lacey Williams の皆さまより多大なるご支援をいただいています。テクノロジーソリューションはパナソニックおよびソニーエレクトロニクスより提供を受けています。「Stories of Cinema (映画の物語)」はドルビーを採用しています。アカデミー映画博物館のデジタルエンゲージメントプラットフォームは Bloomberg Philanthropies がスポンサーを務めています。

「宮崎駿展」は、エキシビション・キュレーター ジェシカ・ニーベル、アシスタントキュレーター J・ラウル・グズマンによる企画、スタジオジブリの企画制作協力のもと、アカデミー映画博物館により開催され、本展のテクノロジーソリューションは Christie®、メインスポンサーとして Arthur and Gwen Hiller Memorial Fund の支援を受けています。また、この展覧会は一部、ロサンゼルス郡の芸術文化局を通じ、ロサンゼルス郡管理委員会の支援もを受けています。全日本空輸からは、航空券の提供を受けています。日本の国際交流基金にもご協力いただきました。

上映プログラム担当者：アカデミー映画博物館 アソシエイトキュレーター兼上映プログラム責任者ベルナルド・ロンドー、上映プログラムコーディネーター ロベール・レノー教育・公開プログラム 責任者：教育・公開プログラム担当ディレクターエイミー・ホンマ、公開プログラム担当マネージャー エドゥアルド・サンチェス、ユースプログラム担当マネージャー フリア・ヴェラスケス デジタルプレゼンテーションはアソシエイトキュレーター ゲイリー・ドーフィン、新規テクノロジーおよび拡張映画は非常勤キュレーター シャリ・フリロットがそれぞれ担当しています。

The Path to Cinema (シネマへの道)：リチャード・バルツァー コレクションハイライトの企画はアカデミー映画博物館 エキシビションキュレーター ジェシカ・ニーベル、アシスタントキュレーター アナ・サンティアゴが担当。リチャード・バルツァー コレクションはパトリシア・ベリンジャー・バルツァーより、アカデミー映画博物館およびマーガレット・ヘリック・ライブラリーに寄贈されました。

Backdrop: An Invisible Art (バックドロップ：見えざる芸術) は、当博物館のキュレーション業務担当シニアディレクター ドリス・ベルガ、コレクションキュレーター ナタリー・モリスが Cecelia Fire Thunder、Karen L. Maness、John Pohl、Tom Walsh、Robert M. Yellow Hair のアドバイザー各氏の協力を得て企画。The Oscars® Experience (オスカー体験) はドルビーを採用。

## 協力・支援

アカデミー映画博物館は 2012 年に建設に向けたキャンペーンをスタートし、2020 年 11 月に目標額の 3 億 8,800 億ドルを上回る資金が集まったことを発表しました。

今回、博物館建設のために大口の寄付をいただいた個人、企業、財団は以下の通りです： Cheryl and Haim Saban (サバン・ビル)、David Geffen Foundation (デヴィッド・ゲフィン・シアター)、Rolex (ロレックス・ギャラリー)、Hobson/Lucas Family Foundation in honor of Sid Ganis、Dolby Laboratories/Family of Ray Dolby (ドルビー・ファミリー・テラス)、The Walt Disney Company (ウォルトディズニー・カンパニー・ピアッツァ)、Marilyn and Jeffrey Katzenberg (マリリン&ジェフリー・カツエンバーグギャラリー)、Steven Spielberg (スピルバーグ・ファミリー・ギャラリー)、Patricia Bellinger Balzer、Shirley Temple Black and Family (シャーリー・テンプル教育スタジオ)、East West Bank (イーストウエストバンクギャラリー)、Gale Anne Hurd (ハードギャラ

リー)、Bob Iger and Willow Bay (ボブ・アイガー&ウィロー・ベイテラス)、LAIKA (LAIKA ギャラリー)、Metro Goldwyn Mayer Studios、NBCUniversal、Netflix (Netflix テラス)、Participant、Cecilia DeMille Presley (セシル・B・デミルファウンダーズルーム)、PwC (Stories of Cinema (映画の物語))、Richard Roth、Gerald Schwartz and Heather Reisman (ジェラルド・W・シュワルツ&ヘザー・ライズマンテラス)、The Simms/Mann Family Foundation (テッド・マン・シアター)、Jeff Skoll、Wendy Stark of The Fran and Ray Stark Foundation、Barbra Streisand (バーブラ・ストライサンド・ブリッジ)、Steve Tisch (スティーブ・ティッシュテラス)、Warner Bros. (ワーナーブラザーズギャラリー) (Warner Bros. Wasserman Foundation (ワッサーマンブリッジ)、Wolfgang Puck Catering。

アカデミー映画博物館のデジタルエンゲージメントプラットフォームはブルームバーグ・フィランソロピーズがスポンサーを務めています。

オープン後、新たな寄付、プログラム、経営、資金調達のためのキャンペーンを予定しています。

### アカデミー映画博物館の入場方法

アカデミー映画博物館の各種チケットは、公式ウェブサイトおよびアプリを通じ、事前予約でのみ購入できます。博物館の一般入場券は、大人 25 ドル、シニア (62 歳以上) 19 ドル、学生 15 ドル、17 歳以下および EBT カード保有のカリフォルニア州民の入場は無料です。15 ドルの追加料金で「The Oscars® Experience (オスカー体験)」の時間指定予約ができます。[「The Oscars® Experience \(オスカー体験\)」](#)の入場の際には一般入場券が必要です。

アカデミー映画博物館の一般向けオープニングプログラムおよび映画上映シリーズについても、アプリで予約ができます。映画上映および公開プログラムのチケットはそれぞれ別に販売され、博物館の一般入場料は不要です。チケットはいずれも、アカデミー映画博物館の公式ウェブサイトを通じた事前予約でのみ購入できます。映画料金は大人 10 ドル、シニア (62 歳以上) 7 ドル、学生 5 ドル、子供 (17 歳以下) 5 ドル、博物館会員 8 ドルです。公開プログラムおよび教育プログラムのチケットは、無料のものから、大人 20 ドルのものまであります。

###

<本件に関する報道関係者様のお問い合わせ先>

Stephanie Sykes / Daniel Gomez

Academy Museum of Motion Pictures

[ssykes@oscars.org](mailto:ssykes@oscars.org) / [dgomez@oscars.org](mailto:dgomez@oscars.org)

もしくは

アカデミー映画博物館 PR 事務局 (株式会社プラップジャパン)

〒107-6033 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 33F 私書箱 562 号

E-mail : [academy\\_museum@prap.co.jp](mailto:academy_museum@prap.co.jp)